

Warta DAICHI

大地のジャカルタ便り



独立記念日

ハイライト:

独立記念日をご紹介します。
プレイグループでの大地を紹介しまし
ょう。

8月17日の独立記念日がやってき
ました。赤と白の二色旗がこのときとば
かり町中を覆うようになります。祝日
のこの日、今年も近所に散歩にいきま
した。

去年は12キロの大地を片手で抱え、
もう片方にカメラを持って路地中には
いっていききましたところ、下の写真の
ようなパレードやパン食い競争のよう



なんとなく近所が静かに感じられたの
で次の日曜日が賑わうのかなと思いつ
つ早々に帰ってきたのに理由はもう一
つ。15キロになった大地が暑いのを
理由に散歩中一度も地面に降りようと
しないので、去年の疲労を思い出して
切り上げた次第です。上は一年前の大
地、下は写真の時だけ地面に降りた今
年の大地です。

なゲームをしている子どもたちにたく
さん会うことができました。今年も近
くの路地に入っていましたところ、
もう顔を覚えてくれているおばさん
が、パレード(カーニバルと呼びま
す)は次の日曜日の八時からだよ、と
教えてくれました。催しは必ずしも独
立記念日当日ではなく、皆が集まりや
すい日を選んで行うようです。今年



目次:

ひとりできるよ	2
バス大好き	2
ジャカルタのじいじ	2
さらなる大地ワールド	3
狸寝入り記念日	3
お友達を紹介します	3
マイブーム	4



プレイグループで

プレイグループの参観日で、いろい
ろなお母さんから大地がどんなに面倒見
の良いお兄さんかを聞くことができま
した。二歳半までの教室で今や最年長
となった大地は、新しいお友達がくる
と、このおもちゃでこうやって遊ぶん
だよ、隣に座って食べなよと世話をや
いてやるのだそうです。新しい環境に

慣れるかはらはらしている小さい子
のお母さんたちから「Daichi, Daichi」と
呼ばれて頼りにされていました。外で
はいつもとてもしっかりしているらし
いのです。ただ母がいた参観日では家
でのように抱っこをせがみ、いつもの
積極性はどこへやら。「お母さんと一
緒だからねー」と冷やかされました。

ひとりでできるよ

一人で何でもしたくなってきた大地。
「自分でやりたい 自分でやる 自分でできた」を達成したときの得意顔には微



笑まずにはいられ
ません
(ただそれを邪魔してしま
ったときのかんしゃくは堪
忍という感じですが)。

こんなことができるようになりました。
一人で着られるよ：パンツ、シャツ(ほとん
ど)、ズボン(ほとんど)。
持ってもらえるよ：今日着る服、父さん
のタオル、母の着替え、読んでもらいた
い本
お片づけできるよ：食べ終わったお皿、
脱いだ靴、母のかばん

写真左はパンツ型オムツを三枚、一人で
重ねはき(?)して満足の大地。写真右
は参観日に口いっぱいおいしいものをほ
おばっている大地。汚しながらですが一
人で食べて飲めるようになりました。



大地のインドネシア語録から：
「おはよう、もうお風呂はいつ
た?」「うん!」「えー、まだはいつ
てないじゃない、うそはだめよ」
「...」。

バス大好き

交通渋滞のジャカルタで、唯一渋滞を気にせずに乗れる乗り物があります。またそれは唯一英語で行き先がわかる乗り物でもあります。それが「Bus Way」と呼ばれる専用レーンを走るバスです。

車高の高いバスの窓から渋滞を横目に、スイスイと街の中心を進むのは、なかなか気分の良いものです。あれが独立記念塔、ここが人気のショッピングモールと観光バス気分です。これまでも休みの日に何度か乗りにいきましたが、荷物に気

をつけたり、バスと乗り場の間に大地が落ちないか、背中の水筒が人に引っかからないか、ときよるきよるしていると、なかなか記念の一枚が撮れずにおりました。この日、お友達の航大くんと一緒にでかけて、ようやく一枚だけ写真撮影に成功、かすかに後ろに見える赤い車体が見えるでしょうか?あれがうわさのバスです。大人三人、子ども二人のバスの旅、大人はやはりへとへとになって帰ってきたのは言うまでもありません。



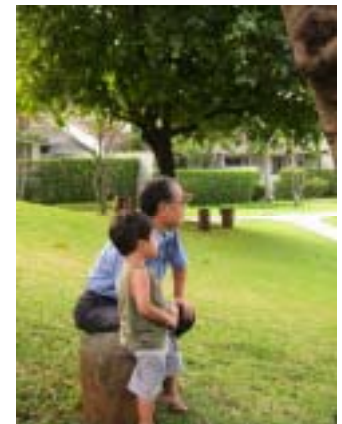
ジャカルタのじいじ

大地をかわいがってくれるのは、インドネシアの人だけではありません。お仕事で三ヶ月ジャカルタにいらした市川さんは、インドネシアで20年以上お仕事をされてきた大ベテラン。その経験を請われて、これからも数ヶ月単位でジャカルタにいらっしゃる予定の方です。日本のお孫さんを思い出しながら、そして偶然にも同じ家に住んでいたこともあるということに懐かしさ半分も手伝って、休日に遊びに来てくださいました。

新しい「じいじ」の出現に、大地は最初

どうおもったかは判りませんが、すっかり楽しく一緒にお散歩を楽しむようになりました。例の木の枝を拾い集める大地の趣味も、市川さんにいわせれば「二宮金次郎」だそうで、ジャカルタのじいじもすっかり、ひいきめに大地をかわいがってくださっているようで、ありがたいばかりです。

ちなみに広島のじいじのことはおいしいお魚を食べると思い出し、ピアノをみると横浜のじいじを思い出さそうです。



大地語のインドネシア語録から
：「おはよう、もうお風呂はいつ
た？」「うん！」「え、誰が？」「大地
の母さん」。敵も進化しています



さらなる大地ワールド

例のミッキーマウスの時計は活躍しています。腕につけて颯爽としている大地は、時計を見ながらいいました「もう時間だ」。あー、こういって、母は朝の食事を切り上げ、散歩から帰るように促し、ベッドに連れて行こうとしていたのです。「はやく」「いそいで」はできるだけ言わないように気をつけていたつもりでしたが、「もう（こんな）時間だ」が口癖になっていたんだ、と気づかされました。口真似をされるようになるのと怖いなあ、と思っていましたが、いよいよその時が来たようです。

その他には「わあ、かわいい」「まあ、すてき」「大地（xxを）好きなのん」

と微妙に女言葉になっているところも。後についてことばを真似ることも上手くなりました。世界中の猫がでてくるDVDをみていると、「これ何（何の猫）？」と尋ねられるので、そのたびに「シャムだよ」「シャム」「ベルシャだよ」「ベルシャ」と読んでやると後から繰り返します。次の猫の名前も読んでくれとせがまれ、余りに長いので口ごもっていると、再度催促されました。そこで致し方なく「ノルウェジャン・フォレスト・キャット」と読んでやると、ちょっと間があって「ぼく、知らない！」（爆笑）。写真は例の時計をして参観日のゲームにのぞむ大地。

狸寝入り記念日

8月8日の日記には「狸寝入り記念日」と書かれています。発端は寝る前にふざけすぎて乱暴になり母が痛い思いをしたことです。「大地、こういうときはなんて言うの」と尋ねると、答えたくないのか、黙って向こう向きにごろんと寝転んでしまいました。名前が呼ばれても目をつぶったまま。ははーん、狸寝入りを覚えたな、攻撃（ちょっとくすぐりました）を加えると、耐えられぬと思ったか、立ち上がってすたすたと部屋の影に

消えました。戸棚をあけてその中にはいっていきような音がします。今度はこちらが狸寝入りをきめていますと、一分ほどして暗闇から声がしました「ごめんねっ」。やがてもそもそ這い出てくる音がして照れくさい顔の大地が戻ってきて、母を自分が籠城していた戸棚に誘い入り方を見せてくれました。写真の棚よりも狭い、高さ30センチの棚で腹ばいになっていたらしい大地の姿を想像して必死に笑いをこらえる母でした。



お友達を紹介します

大地より2ヶ月小さいメガンちゃんは色白の女の子です。最近はプレイグループが終わってお別れするのが悲しくて、二人で代わりばんこに泣くので、なかなか家に帰れない二人です。

参観日の行事の合間に、二人で何かを話しながら手をつないで歩いていて、なんとも愛らしい二人でした。メガンちゃんのお母さんとカメラを向けっぱなしの参観日でした。

またプレイグループの先生が撮影したビデオでは、メガンちゃんがお医者さんに

なり、大地が患者の役をやっているおまごとの様子を見ることができました。いかにも患者らしくぺたっと床に腹ばいになっている大地が、時折メガンちゃんのお医者さんのおもちゃをとりまくるマックスに対してはむっくり起き上がって「とっちゃだめ」と抗議するのはおかしな限りです。それにしても二人とも、どこであんなにお医者さんらしく、患者らしくふるまうことを覚えたんでしょうね、これまたメガンちゃんのお母さんと二人不思議がってました。



今日も、明日も、元気印。

お待ちしております！

独立記念日号

Tamanpuri Setiabudi No.19
Jl. Karabela Selatan, Setiabudi, Jakarta,
Indonesia

電話 +62(21)5211519
Fax +62(21)5277409
Email: Okeikoy@aol.com



8月12日に二歳半になり、体重も15キロになりました。もうXLのオムツしかはけません。そのオムツよりもパンツを好み、自分でコーディネートした服を選んで着るようになりました。おかげさまで赤ちゃんは確実に卒業しようとしています。

マイブーム

【ピッツァだよ】

お盆を高々と掲げて配達気分。こんな格好をした像がジャカルタにあります。本当は「若者の像」なのですが、私たちは「ピッツァハットの像」と呼んでいます。

【マンゴーとって下さい、ありがとう】

庭のマンゴーが鈴なりで、誰もが気になっていると、ある日張り紙が貼られました。せが



【しめてくれない？】

戸棚の中段のよじ登って座り込んでいます。どうやっても自分ひとりでは中から閉めることができないので、思い余って扉をあけての抗議です「閉めてよ！」。



まれて読んでやると「マンゴーを取らないで下さい、ありがとう」と書かれていました。今では木の下を通るたびに大地が説明してくれるようになりました。「マンゴーとって下さい、ありがとう」「あれ？」